

第12回子どもの食育を考えるフォーラム

新しい授乳・離乳の支援ガイドについて
—授乳の支援—

順天堂大学大学院小児思春期発達・病態学
清水 俊明

第2回

日本小児科学会・日本小児保健協会・日本小児科医会 共催

子どもの食育を考えるフォーラム

— 子どもの食を守るのはだれ? —

日時：平成20年1月26日（土）13時30分～17時

入場
無料

※参加事前登録は不要です
どなたでも参加できます。



託児室も
あります
(3ヶ月児～)

無料

※ご希望の方は事前登録が必要です
(株)アルファ・コーポレーション
TEL：0120-086-720 担当：小堀
(月～金9：30～17：30)
平成20年1月18日(金)までにご連絡ください

プログラム

13：30～開会の挨拶 日本小児科医会会長 保科 清
日本小児保健協会会長

(1) 授乳・離乳の支援ガイドラインについて (13：40～)

座長：清水 俊明 (順天堂大学医学部小児科教授)
玉井 浩 (大阪医科大学小児科教授)

①小児科医からみたガイドライン：

山城 雄一郎 (順天堂大学プロバイオティクス講座特任教授)

②授乳・離乳の支援ガイドラインについて：

清野 富久江 (厚生労働省母子保健課栄養専門官)

③ガイドライン使用の実際：

堤 ちはる (日本子ども家庭総合研究所母子保健研究部栄養担当部長)

会場



新しい授乳・離乳の支援ガイドについて

—授乳の支援—

(1) 授乳・離乳の支援ガイドラインについて (13:40~)

座長：清水 俊明 (順天堂大学医学部小児科教授)

玉井 浩 (大阪医科大学小児科教授)

①小児科医からみたガイドライン：

山城 雄一郎 (順天堂大学プロバイオティクス講座特任教授)

②授乳・離乳の支援ガイドラインについて：

清野 富久江 (厚生労働省母子保健課栄養専門官)

③ガイドライン使用の実際：

堤 ちはる (日本子ども家庭総合研究所母子保健研究部栄養担当部長)

授乳・離乳の支援ガイド

- 平成7年12月に離乳指導の目安として「改定 離乳の基本」が厚生省から出された。
- 平成19年3月に厚生労働省から「授乳・離乳の支援ガイド」が発表され、母子保健や医療関係者の子育て支援として活用されている。



新しい授乳・離乳の支援ガイド

2005

2007

平成17年
乳幼児
栄養調査

検討会

2015

2018

2019

平成27年
乳幼児
栄養調査

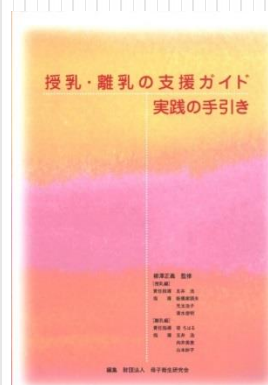
厚労省
科学研究
(楠田班)

検討会

改定
離乳の基本

授乳・離乳の支援ガイド

新しい支援
ガイド



新しい授乳・離乳の支援ガイド

－授乳の支援－

1. 授乳支援の基本的な考え方
2. 乳幼児栄養調査からみた授乳の実態
3. 新しい支援ガイドのための提言

新しい授乳・離乳の支援ガイド

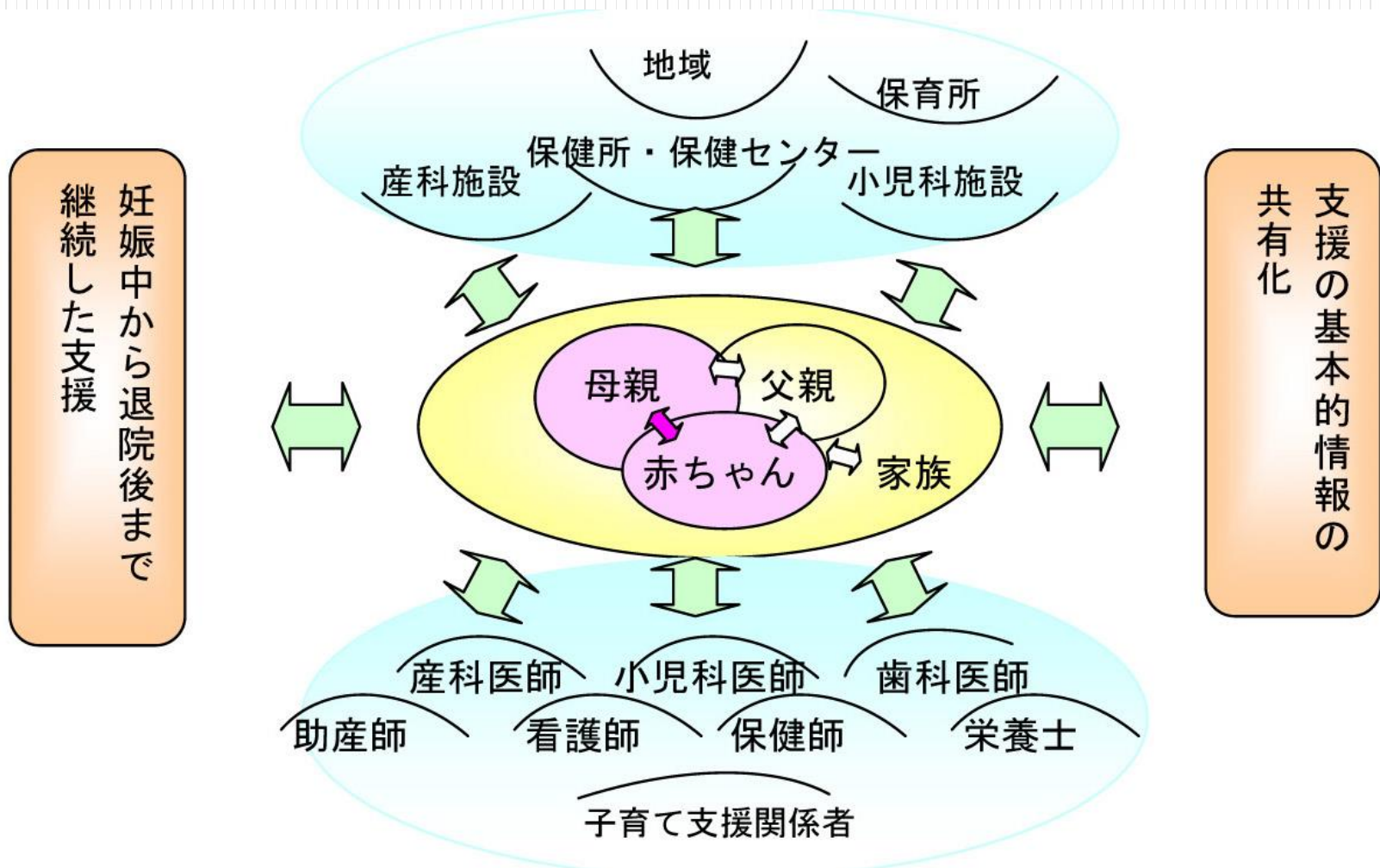
－授乳の支援－

1. 授乳支援の基本的な考え方
2. 乳幼児栄養調査からみた授乳の実態
3. 新しい支援ガイドのための提言

1. 授乳支援の基本的な考え方

- 授乳の支援にあたっては、母子の健康を維持するとともに、健やかな母子・親子関係の形成を促し、育児に自信を持たせることを基本とする。
- 妊娠から退院後まで継続した支援を進める環境作りが推進される。
- 産科施設や小児科施設、保健所・市町に関する基本情報の共有化を行う。

授乳支援の推進に向けて



母乳育児の支援を進めるポイント

妊娠中	<ul style="list-style-type: none">・ 妊婦さんやその家族とよく話し合いながら、母乳で育てる意義とその方法を教える。
出産後から退院まで	<ul style="list-style-type: none">・ できるだけ早く、母子が触れ合って母乳を飲めるように支援する。・ 母親と赤ちゃんが終日、一緒にいられるように支援する。・ 赤ちゃんが欲しがるとき、母親が飲ませたい時には、いつでも母乳を飲ませられるように支援する。
退院後	<ul style="list-style-type: none">・ 母乳不足感や体重増加不良などへの専門的支援、困った時に相談できる場所作りや仲間作りなど、社会全体で支援する。

新しい授乳・離乳の支援ガイド

－授乳の支援－

1. 授乳支援の基本的な考え方
2. 乳幼児栄養調査(2015)からみた授乳の実態
3. 新しい支援ガイドのための提言

新しい授乳・離乳の支援ガイド

2005

2007

平成17年
乳幼児
栄養調査

検討会

2015

2018

2019

平成27年
乳幼児
栄養調査

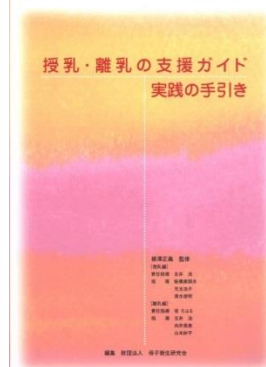
厚労省
科学研究
(楠田班)

検討会

改定
離乳の基本

授乳・離乳の支援ガイド

新しい支援
ガイド



2. 乳幼児栄養調査からみた授乳の実態

- 「乳幼児栄養調査」は、授乳・離乳の支援、乳幼児の食生活改善のための基礎資料を得ることを目的として行われている。
- 1985年から10年ごとに実施(今回の2015年が4回目)。
- 最近の乳幼児の食に関する課題に対する実態把握の観点から調査項目が設定。
- 「乳幼児栄養調査企画・評価研究会」にて調査項目を設定。

【座長】吉池信男 【メンバー】阿部 彩、石川みどり、
尾島俊之、清水俊明、堤ちはる

乳幼児栄養調査(2015年)

【対象】

2015年5月31日現在で6歳未満の子どものいる無作為に抽出された2992世帯。6歳未満の子どもは3871人。

【方法】

9月に調査員が被調査世帯を訪問し、養育者に調査票の記入を依頼し、後日調査員が回収。

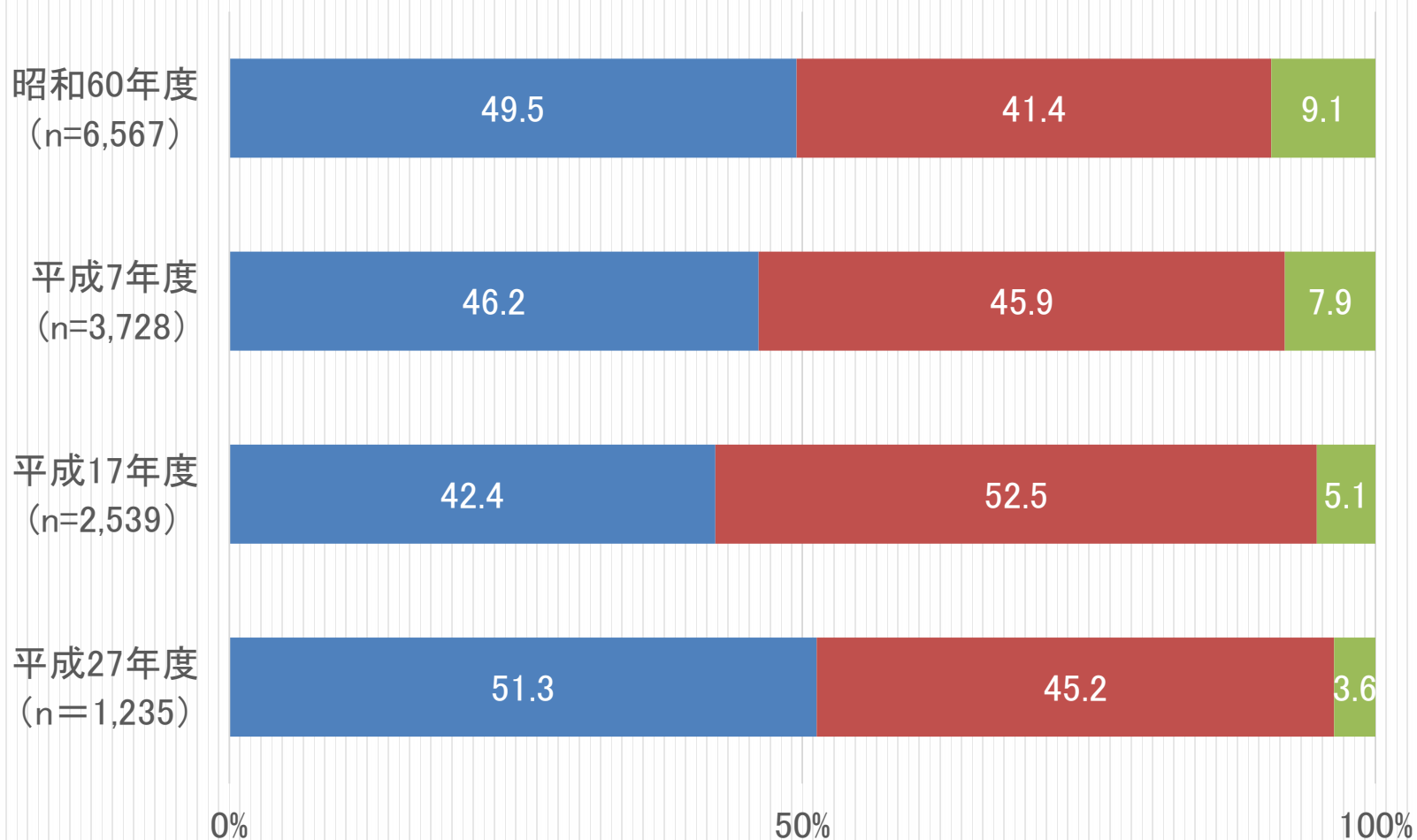
乳幼児栄養調査(2015年)

【調査項目】

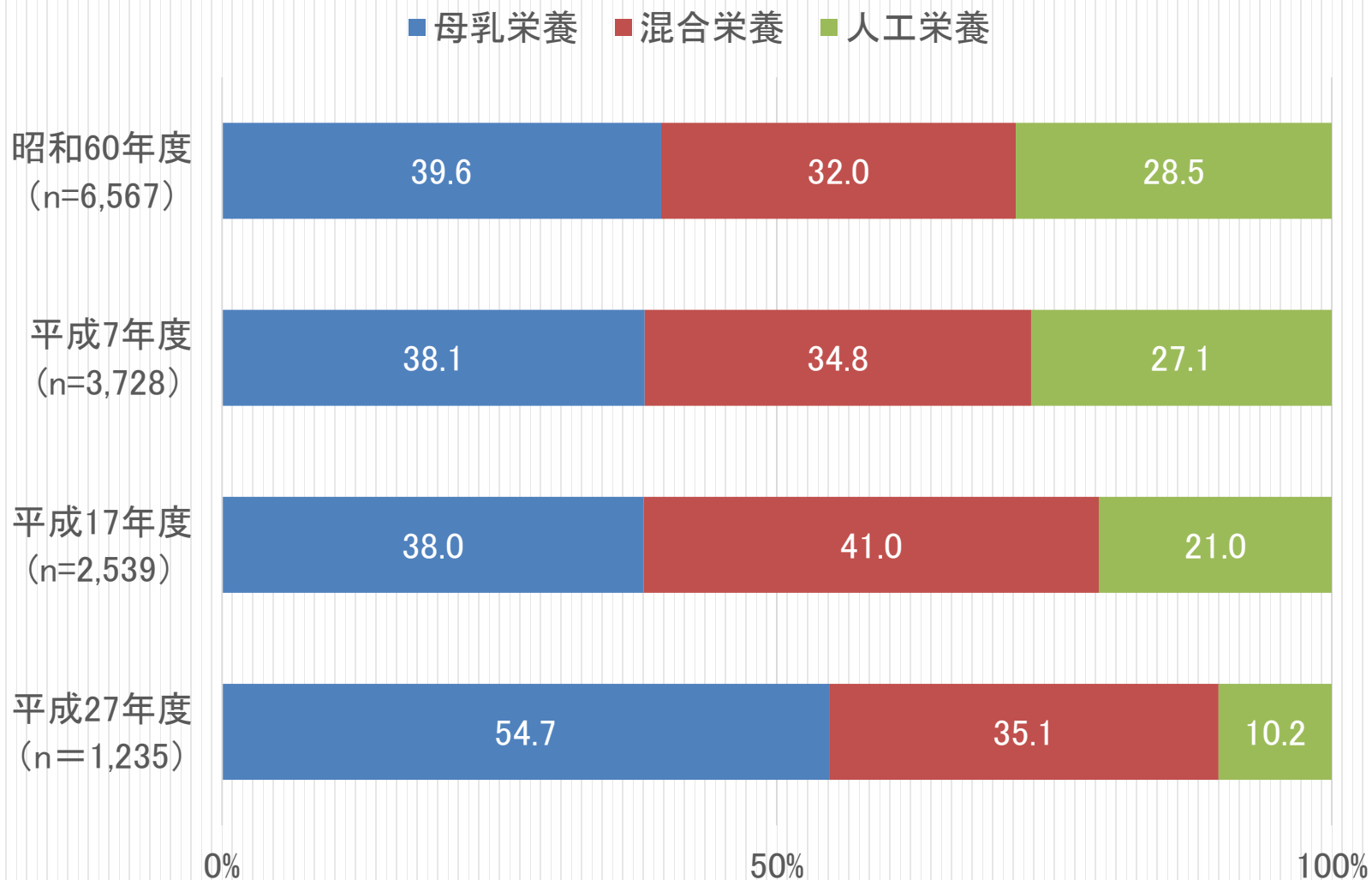
- ・ 母乳育児に関する認識や指導の状況
- ・ 授乳や離乳食の状況
- ・ 子どもの食物アレルギーの状況
- ・ 子どもの健康状態や生活習慣
- ・ 保護者の生活習慣
- ・ 世帯の状況 など

授乳期の栄養方法の推移(1か月)

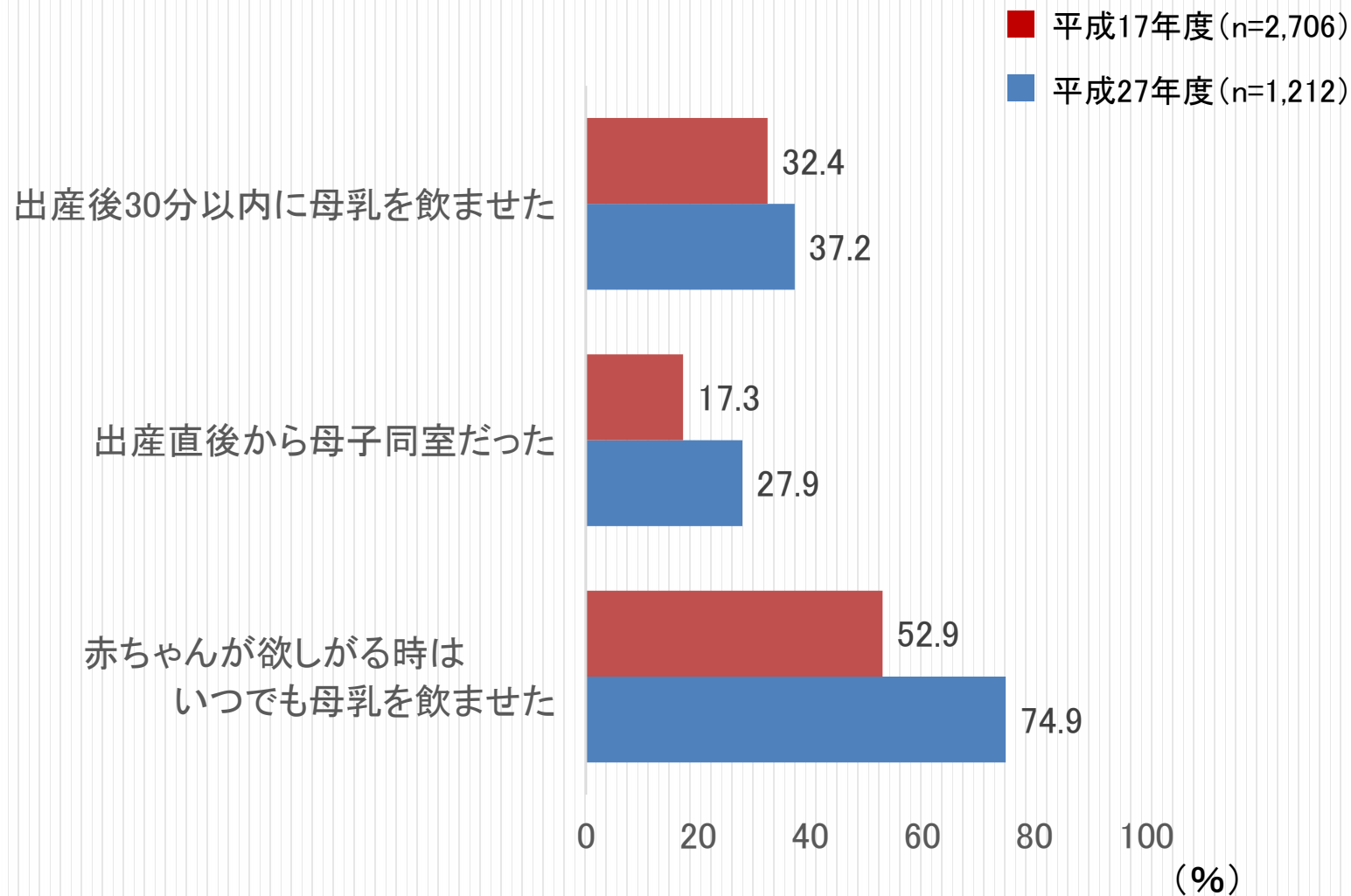
■ 母乳栄養 ■ 混合栄養 ■ 人工栄養



授乳期の栄養方法の推移(3か月)



母乳育児に関する出産施設での支援状況



授乳について困ったこと

授乳について困ったこと	総数 (n=1,242)	栄養方法(1か月)別(n=1,200)		
		母乳栄養 (n=616)	混合栄養 (n=541)	人工栄養 (n=43)
困ったことがある	77.8	69.6	88.2	69.8
母乳が足りているかどうかわからない	40.7	31.2	53.8	16.3
母乳が不足ぎみ	20.4	8.9	33.6	9.3
授乳が負担、大変	20.0	16.6	23.7	18.6
人工乳(粉ミルク)を飲むのをいやがる	16.5	19.2	15.7	2.3
外出の際に授乳できる場所がない	14.3	15.7	14.4	2.3
子どもの体重の増えがよくない	13.8	10.2	19.0	9.3
卒乳の時期や方法がわからない	12.9	11.0	16.1	2.3

新しい授乳・離乳の支援ガイド

－授乳の支援－

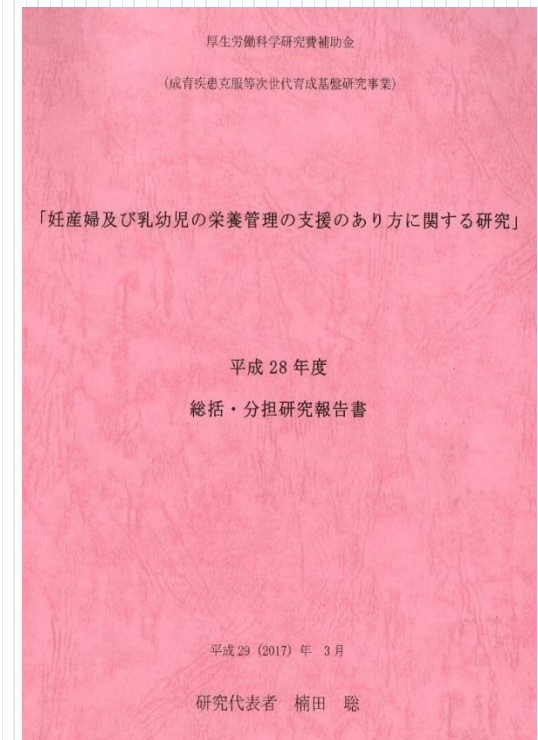
1. 授乳支援の基本的な考え方
2. 乳幼児栄養調査からみた授乳の実態
3. 新しい支援ガイドのための提言

3. 新しい支援ガイドのための提言

- 平成19年「授乳・離乳の支援ガイド」の内容を最新の科学的根拠で検証し、変更が必要な場合は変更案を提言することを目的とし、厚生労働科学研究費助成を受け「妊産婦及び乳幼児の栄養管理の支援のあり方に関する研究」(楠田班)が行われた。

【研究代表者】楠田聡

【研究分担者】清水俊明、田村文誉、
堤ちはる、塙佳生、米本直裕



妊産婦及び乳幼児の栄養管理支援のあり方に関する研究

【方法】

「授乳・離乳の支援ガイド」の内容についてクリニカルクエッション(CQ)を設定し、系統的に文献検索を行い、それぞれのCQに対して提言を作成する事とした。

【結論】

- ・ 母乳栄養を推奨すると共に、栄養法に関わらず育児支援が重要である。
- ・ 母乳栄養の効果には限界があり、栄養やアレルギー疾患との関係についての科学的根拠が必要。

授乳の支援に関するクリニカルクエッション

- CQ2.1 正期産児に母乳栄養を行うと児のアレルギー疾患を予防できるか？
- CQ2.2 正期産児に母乳栄養を行うと児のメタボリック症候群を予防できるか？
- CQ2.3 母乳育児は母親の育児不安を低減できるか？
- CQ2.4 母乳栄養は消化管機能を改善させるか？
- CQ3.1 正期産児に完全母乳栄養を行うと児の神経発達が促進されるか？
- CQ3.2 完全母乳栄養はビタミンK欠乏症の頻度を上昇させるか？

授乳の支援に関するクリニカルクエッション

- CQ5.1 母乳栄養中の摂取禁忌食品あるいは薬物は？
- CQ5.2 早産児または低出生体重児での母乳栄養は正期産児と同等の効果があるか？
- CQ5.3 母子同室が母乳育児推進に繋がるか？
- CQ5.4 混合栄養は育児不安に繋がるか？

授乳の支援に関するクリニカルクエッション

- CQ2.1 正期産児に母乳栄養を行うと児のアレルギー疾患を予防できるか？
- CQ2.2 正期産児に母乳栄養を行うと児のメタボリック症候群を予防できるか？
- CQ2.3 母乳育児は母親の育児不安を低減できるか？
- CQ2.4 母乳栄養は消化管機能を改善させるか？
- CQ3.1 正期産児に完全母乳栄養を行うと児の神経発達が促進されるか？
- CQ3.2 完全母乳栄養はビタミンK欠乏症の頻度を上昇させるか？

CQ2.1 正期産児に母乳栄養を行うと児のアレルギー疾患を予防できるか？

#1 breastfeeding or exclusive breastfeeding: 45244

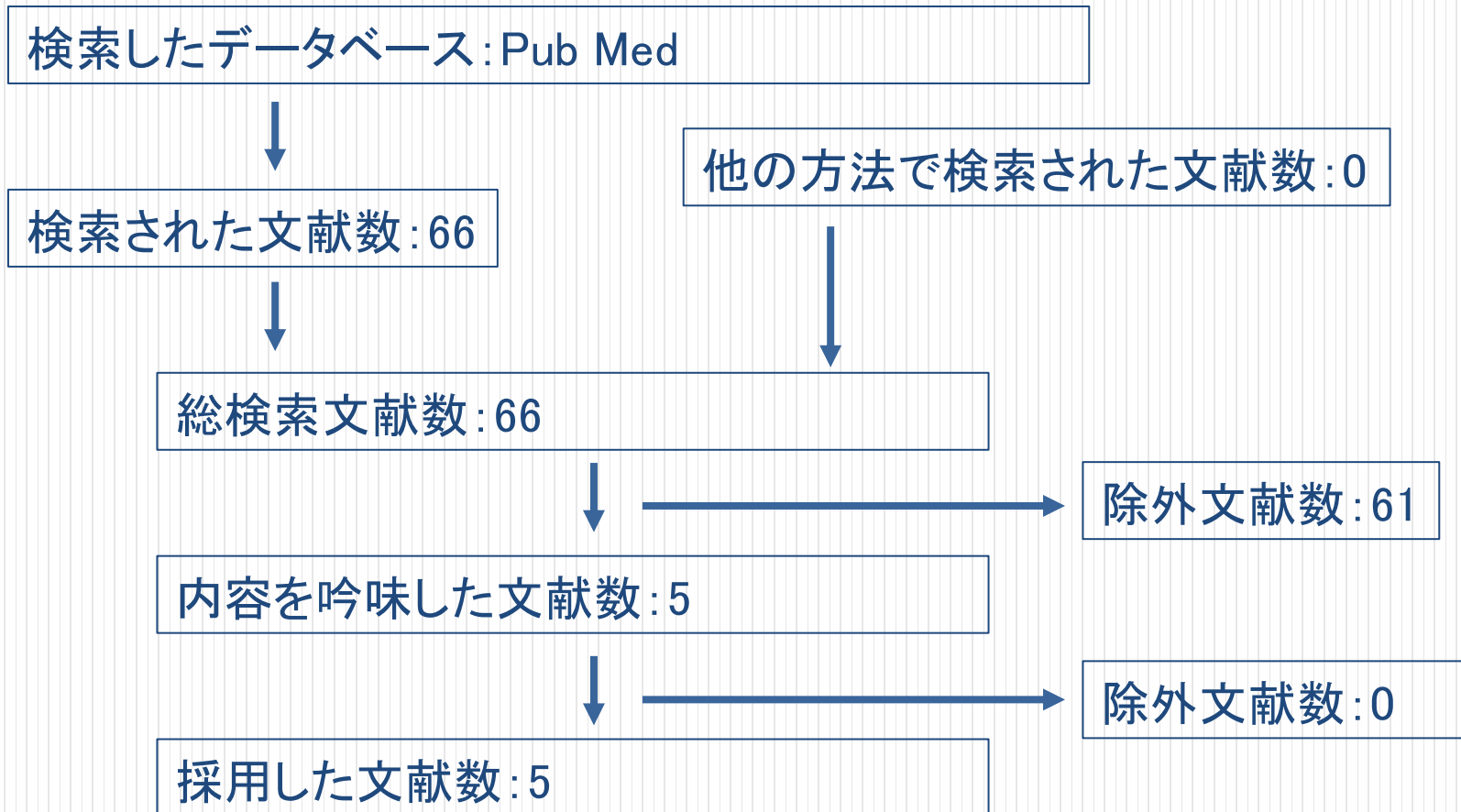
#2 allergy or allergic disease: 418670

#3 meta-analysis or systematic review: 167013

上記#1 and #2 and #3でPub Medから抽出した文献のうち、2009年以降の5文献および加水分解乳についての最新のメタアナリシスを追加して提言を作成。

CQ2.1 正期産児に母乳栄養を行うと児のアレルギー疾患を予防できるか？

文献検索フローチャート



CQ2.1 正期産児に母乳栄養を行うと児のアレルギー疾患を予防できるか？

- 6か月間の母乳栄養には、子どものアレルギー疾患発症の予防効果はない。
 - アレルギー素因のある児も含め、アレルギー疾患に対する母乳の予防効果は限定的である。
 - 加水分解乳のアレルギー予防効果についてもエビデンスは十分でない。
- ➡ 育児用ミルクでアレルギー疾患になり易い、あるいは加水分解乳でアレルギーは予防できるという指導は慎むべき。

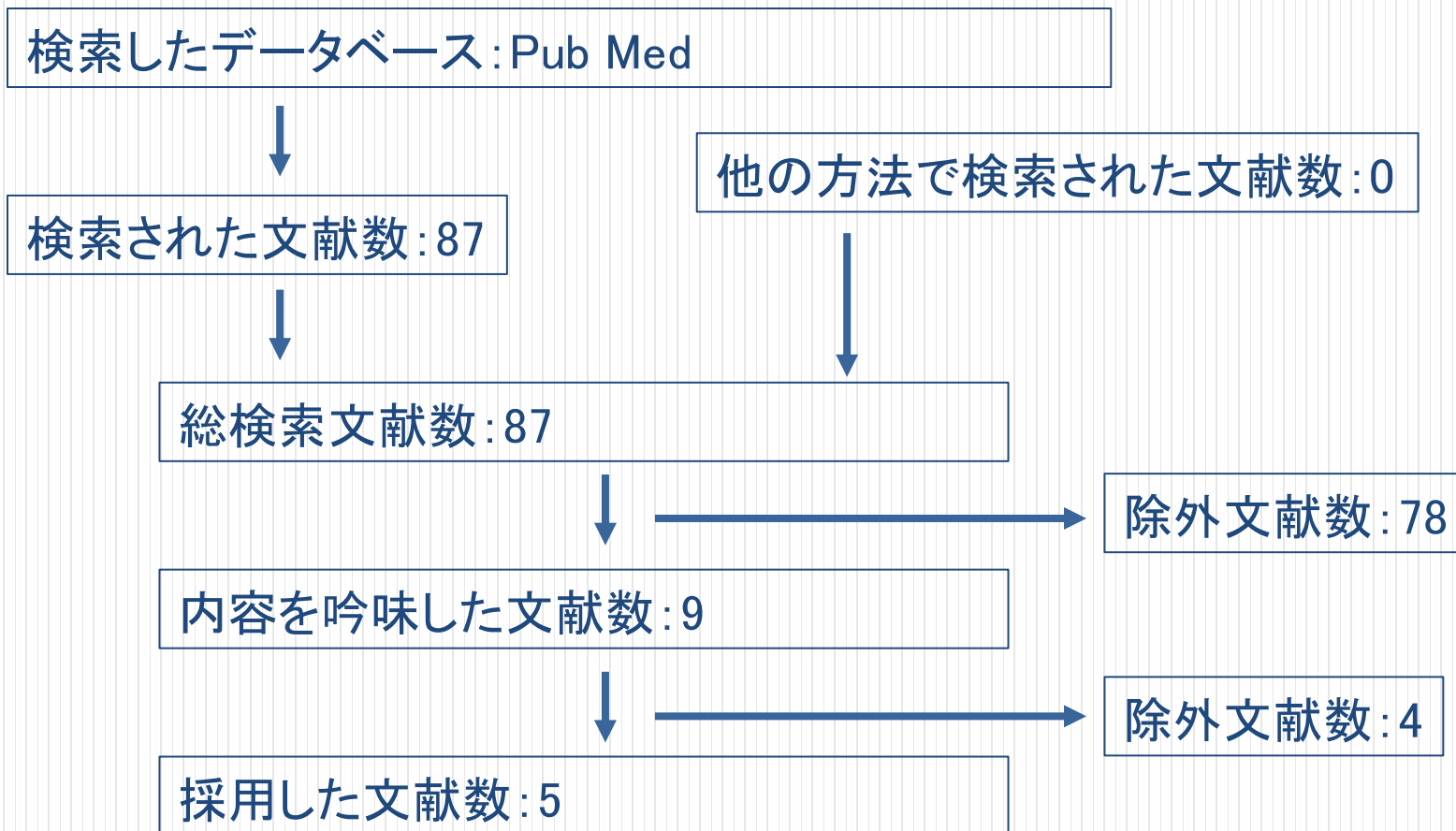
CQ2.2 正期産児に母乳栄養を行うと児のメタボリック症候群を予防できるか？

- #1 breastfeeding or exclusive breastfeeding: 45244
- #2 metabolic syndrome or type 2 diabetes
or obesity: 340109
- #3 meta-analysis or systematic review: 167013

上記#1 and #2 and #3でPub Medから抽出した文献のうち、2006年以降の5文献および国内から発表された大規模な縦断的研究を追加して提言を作成。

CQ2.2 正期産児に母乳栄養を行うと児のメタボリック症候群を予防できるか？

文献検索フローチャート



CQ2.2 正期産児に母乳栄養を行うと児のメタボリック症候群を予防できるか？

- ・ 母乳栄養が小児期の過体重や肥満症のリスクを減らす。
 - ・ 母乳栄養児に後の2型糖尿病の発症が少ない。
 - ・ 母乳栄養児と混合栄養児との間に肥満や2型糖尿病に差があるとするエビデンスはない。
- ➔ 育児用ミルクを与えることによって肥満になるといった表現で誤解を与えないような配慮が必要。

CQ2.3 母乳育児は母親の不安を軽減できるか？

#1 breastfeeding or exclusive breastfeeding: 45244

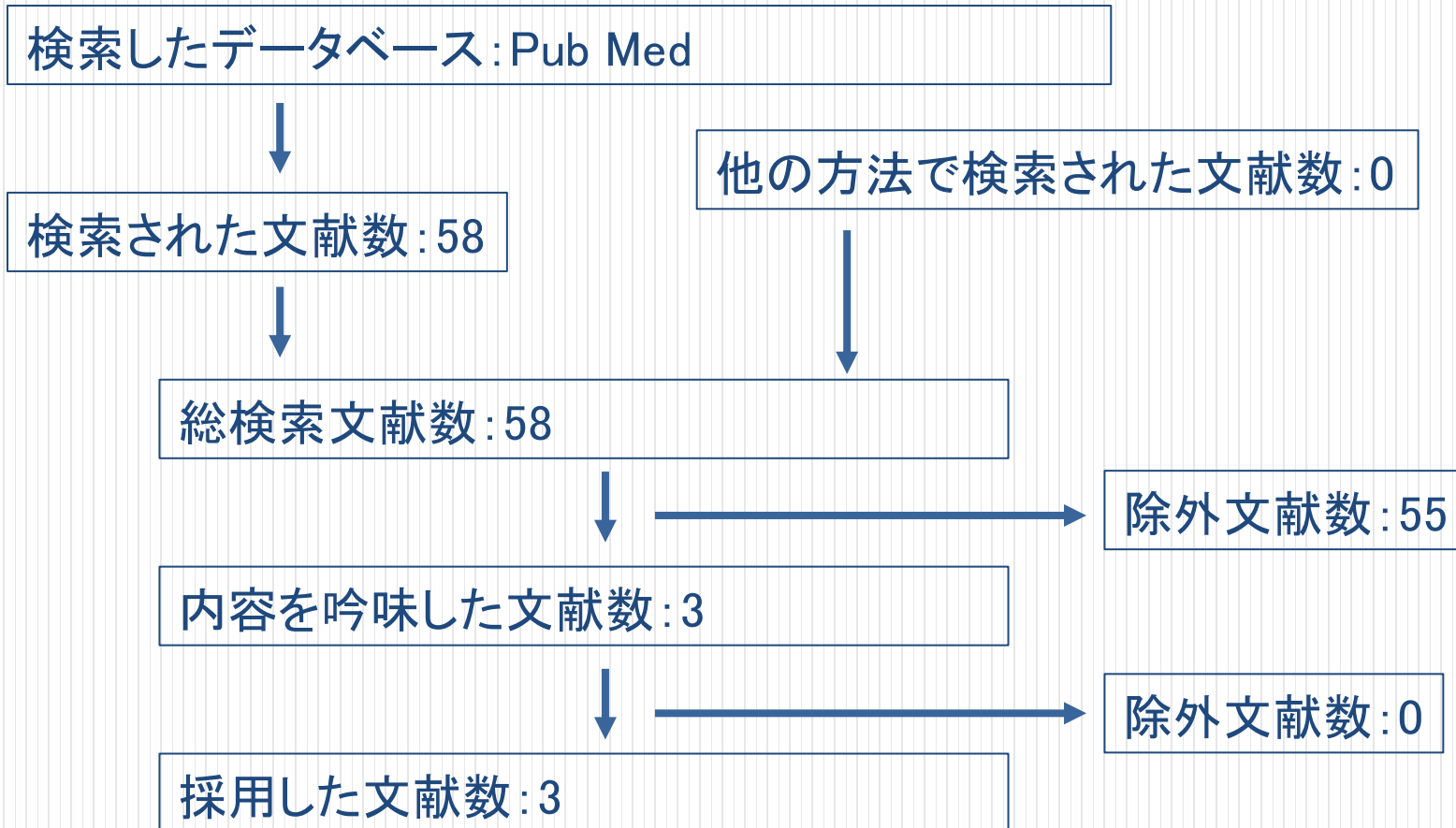
#2 depression or anxiety: 470032

#3 meta-analysis or systematic review: 167013

上記#1 and #2 and #3でPub Medから抽出した文献のうち、2009年以降の3文献を採用し提言を作成。

CQ2.3 母乳育児は母親の不安を軽減できるか？

文献検索フローチャート



CQ2.3 母乳育児は母親の不安を軽減できるか？

- 産後不安やうつ徴候がある女性では母乳栄養期間が短い、もしくは母乳栄養の短縮が産後うつの発症リスクを上げる。
- ➔ 授乳不安が強く、うつ傾向の強い母親に対しては、早期からの産科医、小児科医、助産師あるいは保健師などによる専門的アプローチを検討する。

その他の授乳支援に関するクリニカルクエスション

CQ2.4 母乳栄養は消化管機能を改善させるか？

→文献検索でも、現時点では新しいエビデンスは示されなかった。

CQ3.1 正期産児に完全母乳栄養を行うと児の神経発達が促進されるか？

→完全母乳栄養児と混合栄養児との間に認知・行動に関する神経発達において有意差は認めなかった。

その他の授乳支援に関するクリニカルクエスション

CQ3.2 完全母乳栄養はビタミンK欠乏症の頻度を上昇させるか？

→母乳栄養とビタミンKとで今回参考となる文献は検索されなかった。

CQ5.1 母乳栄養中の摂取禁忌食品あるいは薬物は？

→実際の授乳婦が服薬するか否かの決定は専門職による指示のもとで行われている場合が多く、包括的に示す文献は見られなかった。

その他の授乳支援に関するクリニカルクエスション

CQ5.2 早産児または低出生体重児での母乳栄養は正期産児と同等の効果があるか？

→母乳育児を行うことにより精神運動発達指数、全行動パーセントイルスコアの改善、入院リスクの減少、新生児壊死性腸炎の減少が示された。

CQ5.3 母子同室が母乳育児推進に繋がるか？

→母乳育児の方が母親の満足度は高いので、母乳育児に繋がる母子同室が推奨された。

新しい授乳・離乳の支援ガイド

2005

2007

平成17年
乳幼児
栄養調査

検討会

2015

2018

2019

平成27年
乳幼児
栄養調査

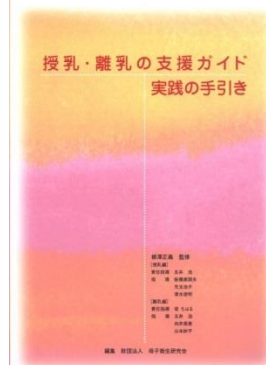
厚労省
科学研究
(楠田班)

検討会

改定
離乳の基本

授乳・離乳の支援ガイド

新しい支援
ガイド



まとめ

1. 平成27年乳幼児栄養調査結果を基に、既存の授乳・離乳支援ガイドに対して、最新の科学的根拠から提言を行う作業が終了した。
2. 新しい授乳・離乳の支援ガイドは、今後上記の提言を参考にして検討会で議論し、来年には公表される予定である。